

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(高雄小学校)

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定		自己評価			学校関係者評価					
		評価日	平成28年2月25日	評価日	平成28年2月26日					
		評価者・組織	研究委員会・職員会議	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員					
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策		
1	確かな学力	子どもが達成感や充実感を味わうよくなる授業	児童アンケート「学校の授業はよくわかってい」ジョイントプログラム・プレジョイントプログラム調査結果	高学年のジョイントプログラムはすべての教科・領域を平均以上評価しているもの、中学年・低学年のジョイントプログラムでは英語・算数・理科や保健体育の授業などで全市を上回るが、漢字を書くことを書くなどのスキルを要する力については全市平均を下回っている。	前期に比べ、特に高学年で言語活動の充実が認められ、それとともに書く力をはじめ思考判断表現力技能などでの伸びが認められる。中学年で授業改善に取り組んでいるが、特に文を書く力や漢字を書く力などのスキル学習を要するものについて課題が見られる。また、低学年では、前期に比べて言語活動について子ども達が達成感を味わうことが少なくなりつつある。さらなる授業改善を図るとともに、スキル学習の機会を多くして学習内容を確実に身に付けていくことが求められる。	まず、子ども達が達成感を味わうことができる授業の創造という視点で授業改善を図る。グループ活動を取り入れたり、話し指導を行ったりするなどの言語活動の充実も継続して取り組む必要があるが、「できるよになった」「話を聞き明かした」「思いどりの活動ができた」など、子ども達が学習して達成した喜びを味わえる授業設計を心がける。また、帯タイムの充実など学校の中でスキル学習に取り組む機会を多くすること。また、家庭学習の際に、「自分に必要な学習」を取り組みたい学習がはつきりわかり、自己の課題解決に向けて家庭学習に取り組めるように働きかけていく。	子ども達の家庭学習は長い間の課題である。家庭学習で自分の良いところを伸ばすのだという自主性を育てていく必要がある。高雄小中学校から、およそ全員の子も達が自分の望みどおりの進歩ができてきていることは高雄校の良いところである。	図書室の環境整備ができたので、そこをうまく活用するとともに、地域の人材を活用して調べる学習や自主的に取り組んでいく学習の仕方方を身に付けられるようにしてはどうか。教師がさせるのではなく、子どもが達成感を味わうことができるような学習を作り出していきたい。		
	子どもが達成感や充実感を味わう言語活動の充実	国語科での単元を貫く言語活動の充実「グループ活動や少人数での話し合い活動の充実」すべての教科・領域での言語活動や表現活動の充実 学校HPでの発信	児童アンケート「自分の考えを話さきり話している」教職員アンケート「言語活動の充実」	児童アンケート「自分の考えを話さきり話している」よくできている大体出てきている高学年92%低学年75%	⇒	⇒	⇒			
	自学自習の習慣の確立	学習予定表の充実 帯タイム・読書タイムの充実 家庭訪問などによる個別の働きかけ 学習計画の共有 読書指導の充実 学校HPでの発信	児童・保護者アンケート「家庭学習の様子」教職員アンケート「学習の見通し」家庭学習への働きかけ	保護者アンケート「わが子は、家族に言われる前に、進んで宿題をしている」よくできている できている前期70.5%から73.6%に伸長	⇒	⇒	⇒	⇒		
2	豊かな心	道徳実践に生かす道徳の時間の充実・道徳教	児童・保護者・教職員アンケート「あいつ」「ごみの後始末」「整理整頓」時間を守る」日常の行動観察	道徳実践については前期と大きな違いは認められないが、道徳の授業の様子などからは子ども達の豊かな心が育ちつつあると認められる。また、子ども達の成長について保護者と連携を取って、一緒に育てていこうとする教職員が多くなり、子どもの豊かな心の育成に良い効果を表すだろうと期待できる。子ども個々の内面を育てつつも、子どもと子ども、子どもと保護者・教職員・地域との関係をしっかりととらえ、そこに見られる問題を解決していくことが求められる。	道徳実践については前期と大きな違いは認められないが、道徳の授業の様子などからは子ども達の豊かな心が育ちつつあると認められる。また、子ども達の成長について保護者と連携を取って、一緒に育てていこうとする教職員が多くなり、子どもの豊かな心の育成に良い効果を表すだろうと期待できる。子ども個々の内面を育てつつも、子どもと子ども、子どもと保護者・教職員・地域との関係をしっかりととらえ、そこに見られる問題を解決していくことが求められる。	子ども個々の心の中の様子をとらえることにとまらず、子どもと子どもとの関係、子どもと保護者・教職員・地域との関係をとらえることが必要だと考える。そのため、あらゆる機会を通して、家庭環境はもろろんのこと子どもを取り巻く環境をしっかりととらえることができるよう。今後もさらに家庭訪問などを通して子どもと理解に努めるとともに、クラスマネジメントシートやアンケートの有効活用の方を直視していきたいと考える	9年間の小中一貫して学べることは親としてはとても安心できる。かつては不登校の子どもの受け皿としての役割を果たしていた時期もある。ただし、力関係ができてしまうと9年間苦しまむことにもつながる。小中連携携て、子ども同士の人間関係はどうなっているのかをしっかりと見つめたい。	高雄校と他校との交流、スポーツなどでの競争など、あらゆる機会を通して、子ども達のエネルギーがより良い方向に向かっているようにしていきたい。また、安心して子育てができるという高雄校のよさをアピールするようしていきたい。保護者が子どもに語りかけができるように働きかけたい。		
	みんなが楽しく過ごせる学級づくり	子ども達の発達に合わせた学級経営の充実 報告・連絡・相談の励行 クラスマネジメントシートやいじめアンケートを基にした学級経営の見直しと推進 学校HPでの発信	児童アンケート「学校が楽しい」誰とも仲良く過ごす」友達への注意」クラスマネジメントシートにいいめアンケートの結果	児童アンケート「学校が楽しい」誰とも仲良く過ごす」友達への注意」クラスマネジメントシートにいいめアンケートの結果	⇒	⇒	⇒	⇒		
3	健全な体	子どもに範を示す教職員・家庭との連携	子どもに範を示す教職員一人一人の背景まで見つめる教職員組 さまざまな家庭訪問などを通して家庭との連携 学校HPでの発信	教職員アンケート「時間を守る」子どもと一緒に清掃活動に取り組み 相手の気持ちや考えを言葉で伝える」家庭への働きかけ	児童アンケート「朝ごはんについて」あまりできていない」できていない低学年7.7%高学年6.7%前期に比べて増加傾向	児童アンケート「朝ごはんについて」あまりできていない」できていない低学年7.7%高学年6.7%前期に比べて増加傾向	下校方法の変更に伴い、安全意識の向上が求められるが、その成果が高学年児童で見られる。交通量の激しい中で暮らしているという自覚と、自分で自分を守るという意識がさらに育っている。しかしながら、朝ごはんを食べずに登校する子どもが若干増加傾向にある。さらに「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が求められる。	通学路の安全を確保するための取組を進めながら、子ども達の安全意識を高めることを、学校のみならず家庭でも働きかけることができるようにする。また、家庭教育講座や学校・学年通信を通して朝ごはんの重要性を家庭に届かせることにも、気にならぬように家庭訪問などを通して個別に働きかけるようにする。	放課後の集団登校を廃止し、複数で帰るようにしたこと、とても楽しそうに帰っている様子が見られる。学校でも楽しそうに過ごしている様子が見られるので良いことだと感じている。	地域や保護者が、なぜ集団登校の時間が早いのかをもう一度確認したい。誰でもがという委員になって集団登校を見守れる時間帯に設定したことを再認識したい。
	基本的な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの励行 保健だより発行を中心とした家庭への働きかけ 長期休業明けの生活リズム調べ 学校HPでの発信	児童・教職員アンケート「早寝・早起き・朝ごはんの励行」生活リズム調べ「早寝・早起き・朝ごはん」	児童アンケート「朝ごはんについて」あまりできていない」できていない低学年7.7%高学年6.7%前期に比べて増加傾向	⇒	⇒	⇒	⇒		
4	独自の取組	安全指導の充実	関連を通学路についての指導の充実 集団登校の指導と助成委員会 教職員による見守り交通安全ボランティアと下校ボランティア 学校HPでの発信	児童アンケート「家の中の安全」教職員アンケート「安全についての環境整備」安全な生活の指導」集団登校・下校の様子	児童アンケート「家の中の安全」教職員アンケート「安全についての環境整備」安全な生活の指導」集団登校・下校の様子	⇒	⇒	⇒		
	教職員のPDCAサイクル 主任の役割	学年部会 研修を企画する委員会の充実 主任の役割の明確化 管理職への報告・連絡・相談	教職員アンケート 報告連絡相談 研修・行事の際のPDCAサイクル主任の提案から実行までの職務の履行	報告・連絡・相談 PDCAサイクル主任の役割のすべての項目で、「よくできている」できていない」の回答が100% 前期より増加傾向	⇒	⇒	⇒	⇒		
	情報の発信	学校ホームページやPTAメールによる情報発信 学校だよりや学級だよりなどによる情報発信	保護者アンケート自由記述欄「保護者アンケート」学校からの情報でよくわかる」PTAホームページについての話し合い	アンケート結果は前期とほぼ変わらない。PTAの話し合いで、PTAメールのみならず、PTAホームページも有効活用したいとの意見が聞かれた。	⇒	⇒	⇒	⇒		
	小中連携	小中連携「基本」若年層の充実・各分掌同士連携 小中連携の学校運営協議会・PTA組織 学校HPでの発信	保護者アンケート自由記述欄 PTA運営委員会での意見 保護者アンケート中学校との連携	アンケート結果は前期とほぼ変わらない。PTAの話し合いで、PTAメールのみならず、PTAホームページも有効活用したいとの意見が聞かれた。	⇒	⇒	⇒	⇒		

4 総括・次年度の課題

確かな学力を身に付けることができるように、来年度以降も普通授業の充実に力を注ぐとともに、あらゆる機会を通して、スキル学習の充実や家庭学習の習慣化を図っていききたい。そのためには、帯タイムや読書タイムの見直し、個別支援のありかたなどを見つめなおしていきたいと思う。また、道徳教育の充実を図ることにより豊かな心を育てるとともに、本物に触れる体験を多くしたり、学校内に限らずより多くの子ども達と交流したり競い合ったりする活動も取り入れていきたい。そのことにより、子ども達の道徳性を引き出し育てたり、あふれるエネルギーがより良い方向に向かうようにしていく。さらには、中学校との連携をさらに深め、子ども達が高雄校のよさ、地域のよさを感じ取りながら9年間の学びを進めることができるようにしていきたい。